

常磐毎日新聞

定額一紙五銭 一月一元五角 半年七元五角 一年十二元
 廣告料五銭以上 印刷費別計
 日曜 祭日の日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社



泥濘

長瀬生

所々にある泥水溜に映る彼の顔の背後に時々青空が美しく深々とのぞくのであったが、そして湿氣の多い晩春の夕暮の郊外近い大氣に若葉の甘い匂ひが漂つてゐるのにはあるが彼は何の感も持たず歩いてゐた。うに夢中に歩いてゐた。「苦しむ反芻」は何處までも繰り返された。家が近づいても戸をがら／＼と開けても續けられた。一方の長靴は仲々にぬけなかつた。彼は硝子戸にかまつてがた／＼と音を立てながら、足を振つてゐたぬけない。踵を縁臺にかけるとらうとした、泥が臺にこびりつけられたらうとした影が眉の間を走つた。子供の聲と。「お歸りなさい」といふ妻の聲が奥からしてゐた。次男の正雄が飛んで来た。視覚と實直感が漸く彼に復して来た。長靴がぬけた。漸く苦しむ反芻からのがれはしたものの、底のある重苦しさは消え難いものであつた。

（二）

「健一はどうだい」「もう大分いゝんですつて、しかしもう一度手術した方がよくだらうつて言つてゐましたか」彼はうなづいて飯を一口口入れて忙しさに噛んでゐた、顔の筋肉が生物の様に動いて垂れ下つた。髪の毛が躍つてゐた十六燭の電燈下で彼の夕食であつた。彼の長男は十日程前に入院したのであつた。骨折した健一の足首は別に苦痛も訴へなかつた……彼等も又それに氣付かなかつたのであつたが、化膿して手術を要する程になつてしまつたのである。それは小さな彼の家庭にとつてあらゆる点からいつて大きな事件であつた。「あのね、昨日のお菓子頂戴よ」「喰ひしんぼうさんね、今ご飯をたべたばかりぢやありませんか、いけません」「一寸いらむ真似をした。それは柔しい母の威嚇であつた。「よう、頂戴よう」「うるさい！」それは小さいが刺すやうな彼のうづつた顔を聲であつた。

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五六番

しもやけ家傳藥
 是マデしもやけハ……ナラネバ治ラヌモノト諦ラメテ居ツタノガ一日二三回二三回ノ御使用デククられたしもやけモ忘レタ様ニ完全治リマス。

伊藤石炭店
 福島兩縣特約
 茨城 電話三四九

有給社員募集
 地方擴張ノ爲男女十數名募集ス
 資格者 經驗ノ有無ニ不拘指導ス
 但シ誠義奮闘家ヲ望ム 希望者ハ午前中當出張所へ面談アラレタシ
 野村生命保險株式會社
 磐城出張所 平町長橋町四七
 主任 福島 健之

造花
 神佛葬具
 花環 盛花 久壽玉 御弔燈 寶明燈
 靈柩自動車
 平新川本橋
 電話一六三

石炭
 コークス
 豆炭
 阿部石炭店
 電話十七三番

魚清のサービス

| | | | |
|--------|------|--------|------|
| たらちりなべ | 三十五錢 | さしみ御飯 | 二十五錢 |
| ちりなべ | 三十五錢 | 天ぶ御飯 | 三十錢 |
| あなごなべ | 三十五錢 | 海老大ぶら | 四十錢 |
| かきなべ | 三十五錢 | 御飯吸物付 | 三十五錢 |
| ねぎなべ | 三十五錢 | 海老天ぶら | 三十錢 |
| 煮込なべ | 三十五錢 | 海老フライ | 三十錢 |
| 鳥なべ | 三十五錢 | 天井 | 二十錢 |
| 牛なべ | 三十五錢 | 親子井 | 二十錢 |
| なべ豚 | 三十五錢 | すし | 二十錢 |
| かきフライ | 二十錢 | ちらし五もく | 二十錢 |
| かき酢の物 | 十五錢 | 御子様すし | 二十錢 |
| あんことも酢 | 十五錢 | まぐろすし | 二十五錢 |
| 定食 | | 鐵火井 | 二十五錢 |
| 四品 | 五十錢 | 鐵火卷 | 二十五錢 |
| 三品 | 五十錢 | 好たけ卷 | 二十五錢 |
| 五品 | 八十錢 | あなご卷 | 二十五錢 |
| 七品 | 八十錢 | | |

魚清食堂
 平二番客路通リ
 電話六三三

大寒流が襲來

近海漁業振はず

各濱は火の消えた状態

郡内各濱並に縣下各漁業地は最近突然水溫四度五分と云ふ數十年來かつてない大寒流が青森縣尻屋崎沖方面から縣下沖一帶に襲來した爲め殆ど近海漁業は不振に陥り漁船は停船したまゝ、休業状態に入り各濱は真くの火の消えた様な状態を示し荷揚場はがらんとした寂れ方であるが右に就いて廿七日小名濱水試場中山場長にどんな故かと聞いて見ると

保證責任

共同漁業

小名濱に新設

小名濱漁業組合が縣下の組合に魁して新たに保證責任小名濱漁業共同組合の設立協議會は明二十八日同組合で開かれ、新組合は出資一口三十圓五ヶ年拂込で初年度には加入金共十圓を拂込むので一人三十口を限度し剩餘金は毎年配當されるものであると

東北有數の副業機關と

茶種榨油工場に

農林省技師の折紙付く

既報農林省副業課建設技師の一行は本廿七日四倉茶種榨油工場を視察したが工場機械の完備と製品の良質及び工場と農家副業の連絡を激賞し東北有數の副業機關であると折紙を付けた

平町各區長

次期推薦

明廿八日、町會で本年三月廿一日迄を以つて任期満了となつた平町第四區長 第十七區長 第四

五四九△大浦二、〇八七
△四倉三、〇四〇△大野
一、八二二△平窪五九三
△下川四六六△川前一、
四三一△計五、九四七

植田信用配當

植田信用組合は来る廿九日同町小學校に總會を開くが本年は二分配當の模様である

貨物列車を増發

來月一日から三十一日迄

平驛は一般貨物の期節的出荷が旺盛となつたので來月一日から卅一日迄平一山出端平一水戸 平一郡山間に不定期貨物列車各一本を運轉すると

小濱港の復舊

植田町小濱港は昨年九月の暴風で砂防堤船付場等を破壊されたので工費五千圓で復舊工事に着手する事となり縣補助金交付方を申請中であつたが近く着工すると

酒造指導日割

縣酒造組合聯合會は年度酒造巡回指導の郡内日割は去る廿五日の平町を筆頭に廿六日高久平窪廿七日内郷である

平町人事

出生

▲白銀町四〇 田口松五郎
▲氏長女芳子さん
▲立町二 丸山玉藏氏四男 功さん
▲結婚 姻
▲極道小路二二 清水準氏

る

磐中期末試験 磐中四年生以下の學期末試験は來る三月五日より開始する

入學志願者 磐中及磐女は去る十八日から新學年の生徒募集を開始したが今日迄の志願者は磐中八名磐女十一名である

(三四) 神奈川縣高津郡 藤澤町船引八重さん(二四)
▲好間村大字川中子 宇杉子内二一 猪狩美佐男氏(二七) 仲間明七六 時山シゲさん(二三)

宗正らひた

美味!
芳醇!

山崎合名會社
電話一〇番

父新潟醫學士佐瀨恒儀病氣中の處藥石効なく廿六日午前六時死去仕候間此段謹告候也

追申廿八日午後二時より三時迄自宅に於て告別式執行仕候

小名濱町
佐瀨 ハ ヤ ミ
親戚 佐瀨 武 壽
代總 吉田 唯 一
友人 會 田 磐 察
總代 木田 松

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませぬか
本會を御利用下さい
直に家政婦派出します

親切 料金は極め低廉で
妊産婦の御家庭 お留守 居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や 雜用

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話二三番)
上原家政婦會
會主 產婆 上原通子

内科 小兒科 花柳病科

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

平署の嚴戒

署内極度に緊張

某重大事件に關して

亂れ飛ぶ流言を取締

平署は昨廿六日夜より深更に至る密行警戒を行つたが尚本廿七日に至つて午前十時半頃柴田署長より全署員に何事か訓示あり署内に緊張の氣みなぎつてゐる

之は東京市中に於ける某事件の重大性に鑑み亂れ飛ぶ流言蜚語を取締り人心の不安を去り自治の安全を計らんとしたものと云はれる

採川二三十名に

五百名の志願者殺到

受験難の鐵道

水戸運輸事務所管内備人採用試験の半地方受験者の爲め同事務所では三月八日午前八時から警中講堂で試験を執行するが現在の受験希望者は五百名に達し係員も整理に忙殺されて居るが採用人員は大體二三十名位と見られる由

執念深い

異議申立

中野氏から

再度の訴願

平町新川町中野勇吉氏提起にかゝる戸數割賦課異議申立問題に就いては中野氏と町當局の間に波瀾を惹き起

吠を製造

菊田技農會

郡内菊田方部九ヶ町村は今同菊田技農會を設立したが

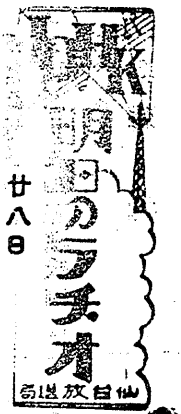
勿來青年旅行

青年學校生六十五名は本廿七日平から郡山を經由して日光方面の修學旅行に出發した

剣道練習

第一校猛烈

昨年の郡内小學校兒童劍道大會決勝戦に植田小學校（高等科）及平第三小學校（尋常科）に惜敗した平第一小學校は目下横田係指導を始め其他五名の係指導



今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
お話と朗讀「ロングブエロー」竹友藻風
後六、二五 講演「大久保彦彦衛門の家傳」山本吉之助
後七、三〇 講演「滿洲農業者移民とその生活」山崎芳雄、滿洲移民ノ將來に對する
後七、四〇 講演「滿洲農業者移民とその生活」山崎芳雄、滿洲移民ノ將來に對する

明日の部
就「宗光彦
後八、〇〇 ラヂオドラマ
銀座交誼社講堂より中戦後九、〇〇 大衆物語「籠抜け銀次」栗島狹衣
後九、三〇 時報ニュース
明日の歴史 氣象通報
番組預告
前七、〇〇 現代語講座

後三、一〇 教師の時間
近世教育思潮講座（七）
乙竹岩造
後六、〇〇 子供の時間
漫劇「透明聯隊」漫書劇場
後六、二五 講演「醫者と醫者でない醫者」甲賀三郎
後七、三〇 趣味講座「鳥原大草一揆」板澤武雄
後八、〇〇 室内樂 東京絃樂四重奏團
後八、三〇 義太夫「中將姫雪貴の段」竹本小上
後九、〇〇 講演「天の投網」寶井馬琴

納豆を賣り
御國へ寄附
第二校六年 女生
本廿七日午前一時頃平町役場に可愛四人の女の兒が訪れて陸軍大臣閣下と上書した封筒に七圓廿九錢を入れ御國の爲に働く軍人の爲に御使ひ下さいと願ひ出たが右は平第二小學校六ノ

資金造成活動 愛國婦人會福島縣支部が昨年十一月より十二月末日まで活動資金造成の爲縣下一齊に販賣した愛婦會シヤンブーはこの程取纏めた結果左記の如くであつた
△若松市七、五〇〇個△湯本町三、〇〇〇個△郡山市二、二五〇個△飯坂

各婦人會情勢
町三、〇〇〇個△川俣町一〇〇〇〇個△青木村五〇〇〇個△丸守村三〇〇〇個△須賀川町一、〇〇〇〇個△白河町一、五〇〇〇個△富岡町三〇〇〇〇個△長塚村二〇〇〇〇個△町北村五〇〇〇個

平各婦人團體
母の會打合
藤田女學校で
平町國防婦人會分會愛婦會分會平各婦人會平女子青年團の各婦人團體は來るべき地入節當日の會を開催することになり之が打合せるの爲三月一日午後一時より藤田女學校で協議する

川邊修學旅行 川邊小學校六年及び高等科の本年度卒業生百十八名は廿八廿九の兩日東京方面へ修學旅行に向ふ

綴檢車機械 平檢車所綴分所の設備機械定期検査は三月二日から五日まで行はれる

市原醫院
平町、四町
電話一四四番

井坂醫院
平町、田町
電話五五九番

資金造成活動 愛國婦人會福島縣支部が昨年十一月より十二月末日まで活動資金造成の爲縣下一齊に販賣した愛婦會シヤンブーはこの程取纏めた結果左記の如くであつた
△若松市七、五〇〇個△湯本町三、〇〇〇個△郡山市二、二五〇個△飯坂

各婦人會情勢
町三、〇〇〇個△川俣町一〇〇〇〇個△青木村五〇〇〇個△丸守村三〇〇〇個△須賀川町一、〇〇〇〇個△白河町一、五〇〇〇個△富岡町三〇〇〇〇個△長塚村二〇〇〇〇個△町北村五〇〇〇個

平各婦人團體
母の會打合
藤田女學校で
平町國防婦人會分會愛婦會分會平各婦人會平女子青年團の各婦人團體は來るべき地入節當日の會を開催することになり之が打合せるの爲三月一日午後一時より藤田女學校で協議する

市原醫院
平町、四町
電話一四四番

